

NPOパワーアップ補助金事業成果報告会 資料

	団体名	GONET(ごみゼロネットちば21)
	代表者名	井上 健治
	所在地	千葉県香取市佐原イ2616 森方 千葉県若葉区原町232
	電話番号	0478-54-6839
1 事業名	<p>【事業名・テーマ】 事業名:PETボトルキャップリサイクル運動 テーマ:小さな気づきから、広がる楽しい環境保全活動 【事業の趣旨】運動をさらに地域で拡大・推進するため、市町村行政とも協働し、小学校を中心に回収拠点作りを推進する、また、人づくり・地域づくりを進め、環境保全や資源循環・3R推進などの転換推進を目的とする。</p>	
2 事業費	910,000 円(このうち県の支出 455,000円)	
3 事業期間	平成20年7月10日～平成21年2月28日	
4 事業の目的	<ul style="list-style-type: none"> ・過去2年間で蓄積された情報やネットワークを、3年目を向える補助金事業の中でさらに強固にし、推進できる体制づくりと市民への周知徹底をはかり、アクションへ繋げていく。 ・運動の展開が容易な小学校での拠点づくりを推進。 ・市町村行政とも情報を共有し、今後の地域での活動を推進する。 ・6市町村の小学校 合計329校を対象に回収の拠点への参加を呼びかける。 ・運動の集大成として運動展開マニュアルを作成し、広く広報する。 	
5 事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・329校の30% 100校の参加を目指す。 ・運動展開マニュアル(報告書) 500部を作成し配布する。 	
6 事業経過	<ul style="list-style-type: none"> ・6市町村の小学校を対象に回収の拠点の呼びかけをし、参加を呼びかける。必要に応じて、3者協議や説明会などを実施する。 ・千葉市(122校)、市川市(39校)、船橋市(54校)、習志野市(16校)、八千代市(22校)、市原市(46校) 合計329校を対象。 ・進捗状況などを共有し、相互の情報交換などを図る。 ・運動のまとめとして、ニューズペーパーを発行し、配布する。 ・補助金事業の集大成として運動展開マニュアルを作成する。 <p>【実施時期】</p> <ul style="list-style-type: none"> 7・8月 企画、準備、各市町村との協議 9月 各小学校への呼びかけ 10月・11月 集計、管理 11月・12月 情報の収集、原稿依頼・作成、企画 1月末 マニュアル印刷アップ 2月 各市町村と協働にて、マニュアル配布、広報。 	
7 事業成果	<p>市町村担当部署および教育委員会との調整が難航し、小学校への呼びかけは大幅に遅れた。</p> <p>また、船橋市は新年度21年度からの呼びかけ、八千代市は取り決めにより、教育委員会からの告知が不可、市原市は独自展開により、目指していた船橋市54校、八千代市22校、市原市46校が対象外になった。(年度内対象小学校数が、207校に減少。)</p> <p>・各市町村への動向概要は以下です。</p>	

	<p>【千葉市】資源循環推進課、教育委員会へ協力依頼。 5校が参加登録。問い合わせが、7校あり 検討中。</p> <p>【市川市】循環型社会担当、教育委員会学校教育部指導課に協力依頼。教頭会にて運動主旨を紹介。1校が登録。問い合わせ3校。</p> <p>【船橋市】クリーン推進課、教育委員会学校教育部指導課、PTA連絡事務局へ主旨、21年度から各学校へ告知予定。</p> <p>【習志野市】クリーン推進課、教育委員会学校教育部指導課にて主旨説明、協力依頼。問い合わせ 2校あり検討中。</p> <p>【八千代市】クリーン推進課、教育委員会指導課へ配布資料を送付、配布検討後、配布不可の連絡あり。 2校が参加登録。</p> <p>【市原市】クリーン推進課と面談。市原市では行政管理の元で、幼稚園、小・中・高校への呼びかけを検討。</p> <p>その後、2月ごろのリサーチでは、社会福祉協議会および業者と協議を重ね、実施に向け準備中との返答。若宮小学校で回収を検討中。21年2月末での参加登録は、8校の参加。今後、増加する感触あり。実施時期は計画より遅延したが、情報交換などは概ね良好だった。取りまとめが2月になったが、「活動のあゆみ」として完了。各団体の原稿収集など順調で、A4サイズ、24ページ モノクロ版で完成。これは予算の関係で縮小し、外注作成にての発行も断念したもの。</p> <p>GONETの思い、運動展開の経緯、活動紹介、回収拠点団体の公表など、内容的には様々なことを想定し、作成。現回収拠点団体やこれから登録する団体や学校が活動マニュアルとしても活用できる。</p> <p>この運動を通して、さらなる市民によるごみ減量行動が進むことを願っている。</p>
<p>8 直面した課題と今後の展開</p>	<p>GONETで取り組んでいる主たる目的は、資源の循環つまり「もったいない」への思いである、PETボトルそのものの削減も視野に入れている。ワクチン寄付という社会性のテーマがあれば、市民は行動するが、単なるごみ減量では動きが悪くなる、「郵送料を払ってまで送ります」との本末転倒の意識や他人依存の傾向もあり、改めて自立する市民運動への意識転換の必要性を痛切に感じた。</p> <p>単なるキャップ集め、またワクチン寄付が主眼に置かれていて、本来の資源の循環、3R推進、地域づくり、意識改革が置き去りにされている傾向が多々見られた。この意識の変革を活動を通して呼びかける必要がある。過去の経験から、動き始めるまでに1年程度はかかる場合がある、また行政や学校の人員が年度替りで変更する影響もある。今後も地道に各位と連携し、参加を呼びかけ進める。</p>
<p>9 補助金事業の感想等</p>	<p>本年度計画により、市町村および教育委員会との連携を図ったが直接、小学校へ働きかけたほうが効果は上がったかも知れない。市町村や教育委員会との登録団体の相互情報管理を目指した計画であったため、今後も活動を通して、市町村や教育委員会とも連携し、参加登録の増加を地域GONETとも協力し図る。</p> <p>この運動は、各登録拠点団体の環境保全活動への自立も目指している、他人依存型ではない、自己管理完結型の市民自立運動確立を推進する。</p> <p>私達の日頃の活動の中だけの展開ではなく、広範囲に広報でき、目標以上の団体参加が短期間の中で達成できた、さらに、その団体を核にさらなるごみ減量運動の展開の期待もできるようになったことは今回の補助事業を実施できた成果だと思います。</p> <p>今回このような企画提案をし、その機会を与えて頂いた事に大変感謝いたしております。</p>